

重点戦略3 暮らし安心健康戦略

1 健康長寿とちぎづくりプロジェクト

1 プロジェクトの概要

(1) 目標

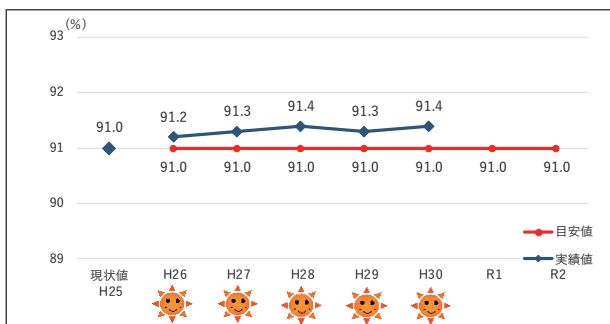
- 県民一人ひとりが、どの地域に住んでいても、心身ともに健やかに歳を重ねていくことのできる環境をつくります。

(2) 重点的取組

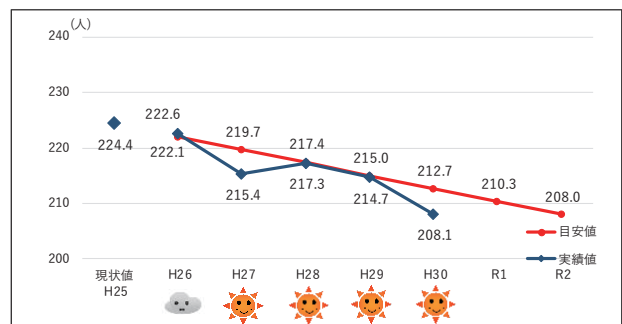
- ☆ 県民の健康づくりの推進
- ☆ 疾病の早期発見・早期治療の促進
- ☆ 高齢者が活躍できる地域づくり

2 プロジェクトの進捗を表す成果指標等の状況

①健康長寿高齢者の割合



②三大死因（がん・心臓病・脳卒中）による死者数



(注)達成見込の判断



概ね順調



やや遅れている



遅れている

○成果指標の分析

- ① 65歳以上人口に占める要介護2以上の高齢者の割合が減少したことにより、健康長寿高齢者の割合が増加しました。また、平均寿命の延伸を上回る健康寿命の延伸がみられています。
- ② 早期発見・早期治療の啓発や生活習慣病重症化予防等の取組により、三大死因による死者数は減少し、目安値を下回っていますが、全国的にも減少していることから全国順位は45位であり、その内訳は、がん117.9人、心臓病55.5人、脳卒中34.7人となっています。

3 県民満足度調査の結果

	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)
満足・やや満足の割合	34.5%	36.9%	32.8%	31.1%	40.1%
やや不満・不満の割合	12.7%	12.8%	14.3%	14.5%	11.4%

4 主な取組成果

① 県民の健康づくりの推進

▷ 心身ともに健やかに歳を重ねていくことのできる地域社会の実現に向けた取組に関する社会的気運の醸成

○生活習慣等に関するデータを活用した健康づくりの推進

- ・糖尿病重症化予防プログラムを活用した医療保険者による情報提供などの普及啓発
- ・ICTを活用した特定保健指導のモデル実施
- ・市町を対象としたデータヘルス分析評価研修の実施

○ロコモティブシンドロームなどの予防の推進

- ・啓発等を行うロコモアドバイザーの養成
- ・ロコモメイトとちぎの拡大

▷ 子どもたちの基本的な生活習慣や食習慣、運動習慣の定着促進

○家庭向け啓発資材等の活用による規則正しい生活習慣や食習慣の確立

- ・学校等への健康づくり専門家の派遣
- ・各健康福祉センターにおける地域での食育・健康づくりを推進するための検討会や講習会等の開催
- ・「食べて健康！プロジェクト」の実施による野菜摂取量の増加、減塩、朝食摂取者増加に向けた啓発
- ・規則正しい食生活を啓発するための食育教室、スポーツ少年団への出前教室等の実施
- ・子どもの望ましい食習慣の確立及び家庭における食への理解促進にもつなげる事業をモデル校において実施

○子どものスポーツ活動を通じた運動習慣の定着

- ・幼少期からの子どもの体力向上に向けた取組の充実

▷ 生活習慣の改善に取り組みやすい社会環境づくりや心の健康づくりの推進

○とちぎ健康づくりロード等の身体活動・運動を行いやすい環境づくりの推進

- ・ウォーキングコース「とちぎ健康づくりロード」の登録拡大と利用促進
- ・とちまる健康ポイント事業の実施

○ヘルシーグルメ推進店制度や禁煙推進店制度等の普及啓発

- ・「とちぎのヘルシーグルメ推進店」及び「とちぎ禁煙推進店」の登録拡大と認知度の向上
- ・健康づくりの専用サイト「健康長寿とちぎWEB」による健康づくりの情報発信

② 疾病の早期発見・早期治療の促進

▷ 疾病の早期発見・早期治療の促進

○市町や医療保険者等と連携した、がん検診や特定健診・特定保健指導等の受診率の向上等の推進

- ・特定健診・特定保健指導従事者への研修会を実施
- ・女性のがん検診の受診率向上に重点を置いた普及啓発や、がん登録データを活用した大腸がん検診の精度に関する分析・評価等の実施
- ・脳卒中、心疾患の予防や急性期医療体制の整備の推進
- ・糖尿病重症化予防プログラムを活用した医療保険者等による保健指導などの取組への支援
- ・糖尿病重症化予防保健指導者スキルアップ研修の開催

○障害者や要介護高齢者等への歯科保健医療サービスの確保

- ・とちぎ歯の健康センター、障害者高次歯科医療機関及び障害者歯科医療協力医の連携により、障害者に歯科検診・医療を提供
- ・県歯科医師会と連携し、在宅歯科医療連携室での患者相談や在宅歯科検診・医療の提供

のほか、在宅歯科医療従事者の育成研修会を実施

③ 高齢者が活躍できる地域づくり

▷ 高齢者の社会参加を促進する仕組みづくり

○ とちぎ生涯現役シニア応援センター（ぷらっと）を通じた就労や社会貢献活動の促進

- ・生涯現役推進員等による総合相談や出張相談会等の実施
- ・とちぎ生涯現役シニア応援サイトによる情報の一元的提供
- ・シニアセミナーの開催 ※ジョブモールとの共催

○ 高齢者の学び直しなど生涯学習の推進

- ・シルバー大学校における社会参加のきっかけづくりと人材の養成
- ・ねんりんピックとちぎの開催や全国健康福祉祭への派遣

○ 市町における高齢者社会参加体制整備の支援

- ・生涯現役応援体制構築に向けた取組に対する経費の一部助成
- ・栃木県シニアサポーターの養成・活動支援

5 総合評価

① 県民の健康づくりの推進

▷ 心身ともに健やかに歳を重ねていくことのできる地域社会の実現に向けた取組に関する社会的気運の醸成

- ・平均寿命の延伸を上回る健康寿命の延伸があり、市町間格差も縮小傾向にある（全国的に同様の傾向）中で、国において健康寿命延伸プランが策定されたほか、平成28（2016）年度県民健康・栄養調査では「働く世代」の運動習慣や食生活の悪化傾向が認められることから、とちまる健康ポイント事業等のICTを活用した取組の実施も含め、健康長寿とちぎづくりに向けた一層の取組が求められています。
- ・ロコモティブシンドロームの予防については、ロコモアドバイザーの養成に取り組んでおり、認知度は目標値に到達していませんが着実に増加しています。
- ・健康長寿とちぎづくり県民運動の推進により、重点プロジェクトへの参加など、健康づくりに取り組む企業や団体が増加しています。

▷ 子どもたちの基本的な生活習慣や食習慣、運動習慣の定着促進

- ・規則正しい生活習慣や食習慣の確立について、地域や学校等において課題の共有、児童生徒や家庭に向けた食に関する啓発・情報発信等を行っていますが、引き続き野菜摂取量や、朝食欠食率の改善が求められています。
- ・子どものスポーツ活動を通じた運動習慣の定着については、指導者研修会や表彰などの取組により、「1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合」は、平成28（2016）年度から中学2年生で全国平均を上回っているものの、小学5年生では全国平均を下回っている状況にあります。

▷ 生活習慣の改善に取り組みやすい社会環境づくりや心の健康づくりの推進

- ・特に働く世代である青年・壮年層において野菜摂取量や運動習慣、喫煙習慣など生活習慣に関する指標に遅れが見られます。
- ・スマートフォンアプリを活用し、働く世代を始めとする県民が楽しみながら運動習慣の定着に取り組める環境づくりを推進するとともに、「とちぎ健康づくりロード」や「とちぎのヘルシーグルメ推進店」、「とちぎ禁煙推進店」等の登録推進に取り組んでおり、登録数も増加しています。

② 疾病の早期発見・早期治療の促進

▷ 疾病の早期発見・早期治療の促進

- ・特定健診・保健指導の実施率は、目標には届かないものの、保険者の努力や従事者への研修等により年々向上しています。
- ・がん検診の受診率については、普及啓発、精度管理支援等により、全てのがんで全国値を上回り、年々向上しています。
- ・脳卒中の初期症状等の啓発や救急救護体制の整備、急性期医療連携の推進等に取り組むことにより、脳卒中による死亡率は減少傾向、在宅等の場への復帰割合は増加の傾向にあります。
- ・糖尿病重症化予防プログラムに取り組む保険者は横ばいとなっています。情報提供、受診勧奨は対象者の9割以上に実施しているものの、保健指導の実施率は低い状況です。
- ・疾病の早期発見・早期治療のみならず、がんや生活習慣病の治療を必要とする人が安心して治療継続できる環境の整備が求められています。

③ 高齢者が活躍できる地域づくり

▷ 高齢者の社会参加を促進する仕組みづくり

- ・急速に進む少子高齢化の下、社会参加活動に関心を持っている高齢者には、地域社会の支え手として活躍してもらう「生涯現役社会」の実現が求められています。
- ・「ぷらっと」を通じた社会参加活動の促進については、平成26（2014）年10月の開所から5年半が経過し、これまでの相談等の利用者数は5,350人となっています。地域においては、栃木県シニアサポーターによる普及啓発の取組が進められていますが、今後は、高齢者の社会参加の裾野を広げるため、高齢者の社会参加を促進する仕組みの構築など、更なる支援が求められています。